

あ と が き

2月14日に開催しました教育研究発表大会には、多くの教職員や市民の皆様にご参加いただきありがとうございました。守山市の教育に対する期待の大きさに、身が引き締まる思いでした。

本研究所におきましては、教育公務員特例法 22 条の5および 22 条の6に基づき、本年度より研修履歴の記録とそれらを活用した研修が受講奨励されたことを受け、これまでの研修講座を見直しました。特に、教科指導力や生徒指導力などを高める研修や、市内の先輩教員等から実践事例を学ぶ研修など、個々のキャリアやニーズに応じた研修に力を入れてきました。「明日からすぐに実践してみようという前向きな気持ちになりました。」「目の前の子どもの様子に右往左往するのではなく、その子の背景を探るためのアセスメントが大事だと気づきました。」「教職員相互の学び合いによって、新たな価値観（教育観）が生まれました。」等々の感想からは、主体的に自らの課題意識にそって学んだり、立場の違う人たちと協働的に学びを深めたりする姿が数多く見られました。急激かつ複雑で予測不可能な社会の変化に対応するには、わたしたち教職員自身も学び続ける必要があります。今後も、心に響く研修講座となるよう、その内容や方法の一層の改善に努めてまいります。

また、本年度の研究成果として、『教育相談ハンドブック』を完成させることができました。よりよい子ども支援のための教育相談のあり方について、わかりやすくまとめたものですので、ぜひ活用してください。

本研究所では、学校園が直面している今日的教育課題の解決を目標に、研究や研修講座を企画し、守山教育のさらなる発展に寄与できるよう引き続き努力してまいります。本研究所の研究成果が、本市教育実践の一助となれば幸甚です。これからも、多くのご助言をいただく中で、充実した研究、研修に尽力していきたいと考えておりますので、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年度の研究におきまして、指導講師としてご協力いただきました、滋賀県教育委員会スクールソーシャルワーク・スーパーバイザー 上村 文子 様をはじめ、教育研究発表大会や研修講座、研究でお世話になりました多くの皆様に、衷心より感謝申し上げます。

